

ひがししゅぞうじょう てんぼけんおもや  
東酒造場 店舗兼主屋ほか11棟

種 別 国登録文化財 建造物  
登録年月日 平成21年1月8日  
所在地 野田町

東酒造場は万延元年（1860）創業の造り酒屋で、国登録文化財の建物は、「店舗兼主屋」、「東蔵」、「中蔵」、「作業場」、「西蔵」、「検査室」、「麴室」、「桂松庵」（茶室）、「緑寿庵」（待合兼客間）、「道具蔵」、「大門」、「勝手口」の12棟がある。

昭和11年（1936）に火災により西蔵を残してほぼ全焼しており、西蔵以外は火災後に築造されたものである。店舗兼主屋は昭和11年、そのほかは昭和20年代の築造で、火災を免れた西蔵については明治35年（1902）移築の棟札が残っている。

地元産の観音下石<sup>(1)</sup>を積んだ東蔵や中蔵、下見板<sup>(3)</sup>張の西蔵、ベイウィンドウ<sup>(2)</sup>が特徴の検査室、長屋門<sup>(4)</sup>で格式のある大門、四畳半茶室の桂松庵や上質な和風建築の緑寿庵など、多様な意匠の建物が立ち並び、老舗の造り酒屋の豊かな建築空間を創出している。

- (1)「観音下石」：小松市山間部の観音下町で採掘される凝灰岩系統の黄色い石。
- (2)「ベイウィンドウ」：窓台の平面形が台形の出窓。
- (3)「下見板」：建物の外壁に少しずつ重ねて横に張った板材。
- (4)「長屋門」：門の形式の1つで、長屋と結合させた門。



東酒造場 東蔵（右）と大門（左）



西蔵（右）と検査室（左）



道具蔵